

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだより

発行 麻生区クールアース推進委員会

2016年12月 vol.35

2016年度 おひさまと遊ぼう



9月17日(土) 子育てフェスタに参加しました

「おひさまと遊ぼう」にたくさんのおひさまたちが！

クールアース推進委員会の「おひさまと遊ぼう」は、より多くの区民の皆さんに「おひさま」のエネルギーの素晴らしさを実感してもらうために、毎年、新百合ヶ丘駅南口のペDESTリアンデッキで行われてきました。今年は、麻生区役所が主催し、区内の多くの保育園や育児団体・グループが協力して区役所前広場で行われた「子育てフェスタ」に参加し、太陽光パネルなどのブースを設けました。

朝9時、スタッフの手で区役所4階から机や椅子、地下室からパネルやクッキングなどのソーラーグッズを運んで広場の所定の場所に設置しました。

この時刻には、周りの各団体のブースもすっかり準備を終わっていました。

午前10時の開始を待たず、多くのおひさまたちや家族連れの参加者が広場に入りだし、「おひさまと遊ぼう」のブースにも立ち寄り始めました。心配された天候ですが、かえって残暑厳しい好天に恵まれ、参加者もスタッフも汗だくでした。人気が高かったのは、手

回し発電とソーラーおもちゃ、ソーラーカー。子育てフェスタに参加したおひさまたちがたくさんブースに立ち寄りました。

このイベントでは試食が一切禁止されていたので、ソーラークッカーで調理した物を食べてもらうことができず、やや中途半端な印象で残念でした。衛生面を考えれば仕方ないかな。

今回「子育てフェスタ」に初めて参加しましたが、多くのおひさまたちと触れる機会があり、とても良い企画と思いました。(矢沢美也記)

目次

- ・2016年度おひさまと遊ぼう・・・・・・・・・・1
- ・2016年度第2回
あさお自然エネルギー学校・・・・・・・・・・2
- ・区民まつり・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ・福島のおひさまたちとともに・・・・・・・・・・3
- ・科学とあそぶ幸せな一日・・・・・・・・・・3
- ・ゼロエネルギー住宅の体験談と
太陽光発電説明会・・・・・・・・・・4
- ・編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・4



- 左上から
- ・トーマス
 - ・ソーラーカー
 - ・扇風機帽子
 - ・ソーラークッカー
 - ・手回し発電



11月19日(土) 映画「シェーナウの想い」上映会 開催

～地域で考える自然エネルギー～



5月の第1回あさお自然エネルギー学校は「自然エネルギー中心の持続可能な社会を目指して～私たち市民の重要な役割～」がテーマでした。講師の和田武氏は、「温暖化防止のため全世界の196カ国がパリに集まりCOP21（気候変動枠組み条約締約国会議）を開催し画期的な決定をした。それは産業革命前に比べ地球の平均気温が既に約1℃上昇。これを2℃以内に抑えるため今世紀末にはCO₂排出を実質的に0かマイナスにすることが必要。また各国のCO₂削減目標では達成できないので5年ごとに見直しを行い、さらに1.5℃以内を努力目標にすること」で合意したことを受け、自然エネルギーへの転換が急務と強調されました。

今、世界では太陽光、風力などの自然エネルギー利用が急増。デンマーク、ドイツは再生可能エネルギー発電が飛躍的に進み1990年から2014年では、日本が1.5倍増に対し、ドイツ9.3倍、デンマーク22.5倍、この原動力が市民力にあることを詳しく紹介されました。

日本には化石資源は少ないが海・川・森林・火山に恵まれ雨量も多いなど自然エネルギー資源はどの国よりも豊富で原発や化石資源に頼らなくてもよい。2012年の電力固定価格買取制度で太陽光発電が急増、市民共同発電所作りも広がっており「市民力で持続可能な未来づくりを目指しましょう」と呼びかけられました。

これを受けて、11月の第2回は「地域で考える自然エネルギー」としてドイツの事例映画「シェーナウの想い」を観て意見交換をすることにしました。

第1部 映画上映（電力供給までの流れ）

1986年チェルノブイリ原発事故はドイツ南西部にある人口約2500人の小さなまちであるシェーナウ市にもおよびました。市民は子どもを守るため「親の会」を結成します。街中に放射能を避けるための「情報スタンド」を設置、ウクライナの病院の子どもを保養のために招くことや市民に節電を呼びかけるキャンペーンに乗り出し1年目には約10%の削減に成功。そこで地域独占電力会社（KWR）に対し3つの要求「原発でない電力供給、太陽光等のエコ電力の買取価格引き上げ、節電を促すための電気料金制度」を提案しますが冷たくあしらわれます。

当時シェーナウ市域への電力供給は市とKWR社の独占契約になっており契約切れは4年後に迫っていました。KWR社は独占権益を守るため1991年市議会に対し次の20年間の契約を前倒して更新をしてくれるなら500万円を提供すると提案し、賛成多数で可決されました。これに対し親の会は「決議無効の住民投票」の異議申し立てをします。住民投票の結果わずかの差で勝利します。

しかし誰が電力を供給するのかが問われます。そこで住民グループ（親の会）は4年後までに電気事業を始めるため「自分たちで電力会社を立ち上げよう」と決意しシェーナウ電力会社（EWS）を発足させます。これがマスコミで全国に伝わり大きな期待を集めます。1994年経産省より電気事業の認可が下り電力供給会社EWSが正式に誕生、翌1995年市議会は電力供給の認可契約をEWSと締結する議案を可決します。ところがKWRと同調する一部住民は「これまで通りKWRと契約すべき」と異議を申し立て再び住民投票になりますが勝利。国中の期待と寄付支援により電力網を買い取り、ついに1997年EWSは念願の電力供給を開始します。親の会発足から実に10年の歳月が流れていま



した。翌1998年電力自由化が導入され自由に電力会社を選べるようになり、今やEWSは原発に頼ることのない自然エネルギー中心の電力を調達し13万世帯に供給するまでになりました。未来への責任を果たすため市民の協働による力は国民に大きな勇気を与えました。

第2部 意見交換（感想文も含めて）

上映後、参加者全員が映画の感想を出し合いました。「政治家にこそ観てもらいたい。」「市民が電力会社を持つことができたという事実を知り、頑張れば世の中



上映会の様子

を変えられるという希望を感じることができた。」「私たちは微力だが無力ではないと思った。」「映画は素晴らしかった。全国放送で知らせたい。学校等若い人にも見せるべき。」「電力関係だけでなく、生き方にも通じると思いました。」などが出されました。皆さんの声を聞き主催者として勇気づけられました。

(伊藤清美記)



意見交換会



区民まつり

10月9日(日)

朝から土砂降りの雨！開催時刻 10 時になってやっとソーラーパネル、手回し発電機、ソーラークッカー「かるぴか」を展示することができました。開催を告げる花火が上がると雨の中、お客さんが訪れ始めてホッとしました。

ソーラークッカー「かるぴか」では通常時の使用の他に、災害時などに非常食を調理できることなどをアピールすることができました。また、太陽光発電システム区役所屋上見学会は例年 2 回実施するのですが今回は 1 回だけとなりました。

例年より来客数は少なかったのですが、ゆっくりと体験していただけたように思いました。

(吉松富壽子記)



上：手回し発電にチャレンジ



下：区役所屋上太陽光発電見学会



麻生区クールアース推進委員会の活動は麻生区内で行うのが原則ですが、委員会メンバーの有志は区外でも活動しています。その事例を 2 つ紹介します。

福島の子どもたちとともに

8月20日(土)

「川崎市民の会」が福島県の避難先の子どもたちを川崎に招く活動を実施してきて今年の夏で 18 回目になりました。今年は 8 月 17 日～21 日に 4 泊 5 日で宮前区の川崎市青少年の家で開催され、私たちは 20 日(土)の太陽光の勉強会に参加しました。内容は出前授業と同じ形で行なってきましたが、今年は天候に恵まれなかったためソーラークッキングはできず、室内でパワーポイントを使っての地球温暖化についての学習と手回し発電やソーラーおもちゃ等の体験だけになってしまいました。しかし、子どもたちの多くは学習内容を理解できたようでした。

(岩田輝夫記)



写真は「川崎市民の会」より提供いただきました。

科学とあそぶ幸せな一日

9月10日(土)

麻生区クールアース推進委員会では自主参加でソーラーチームの活動を応援し、ともに自然エネルギーの普及・啓発に努めています。ソーラーチームは川崎市地球温暖化防止活動推進センターのプロジェクトチームです。

「科学とあそぶ幸せな一日」は新川崎タウンキャンパス(K2)で開催され、私たちはソーラーチームに協力し、ソーラークッカー「おやぴか」を出展して焼きそばや焼き芋、カボチャなどの調理を行ないました。訪れた親子などに太陽のエネルギーのすばらしさをアピールすることができました。

(吉松富壽子記)



ゼロエネルギー住宅の体験談と太陽光発電説明会



今年度第2回目の太陽光発電説明会は10月24日(月)に、16名の参加を得て、第1部：ゼロエネルギー住宅の体験談、第2部：太陽光発電説明会の2部構成で開催しました。

第1部のゼロエネルギー住宅の体験談は、元川崎市公害研究所所長の廣瀬健二様にお願ひしました。ゼロエネルギー住宅とは、およそ以下のような住宅です。

○高断熱・高气密住宅であるため、室内は外気の影響をほとんど受けないので、冷暖房のためのエネルギー消費が非常に少ない。

設備仕様：

- 最も熱の出入りの多い窓：真空トリプルガラスと樹脂サッシ
- 断熱材：フェノバボード（通常の住宅用ロックウール断熱材の2倍の断熱性能）
- 24時間換気装置：吸気と排気で熱交換するシステム（90%の熱を回収）

○太陽光発電設備（4.14kW）や太陽熱温水器（貯湯量：200ℓ）を自宅に設置し、エネルギーはできるだけ自給し、余剰分は売却し、結果的に自給自足できる（表1を参照）。

講師は「住まいの断熱性能が優れていると快適！」と締めくくられました。また、慶応大学の伊香賀先生は、高断熱住宅と健康について研究されており、アレルギーや高血圧性疾患等の有病者が減少すると報告されています。快適とはSustainability（持続性）、Health（健康）、Comfort（楽）と定義づけして活動している企業がありますが、まさしくそのように感じました。

第2部の太陽光発電説明会は、太陽光発電設備の設置に関する説明と太陽光発電設置体験談を行い、個別の設置相談にも応じました。町会・自治会への出前説明会も実施していますので、是非声をかけてください。

（松下和夫記）



表1 年間エネルギー収支（熱量換算）

	項目	使用量	熱量 (MJ)
購入分	電気	2,123 kWh	20,720
	ガス	138 m ³	6,210
	薪	900 kg	18,000
	合計		44,930
売却分	電気	4,420 kWh	43,140

編集後記

光・エネルギーは、生命を育むもの、死や破滅に導くものであってはならない。

クリントン氏は得票総数では多かったものの、世論調査の結果に反し敗北した。「温暖化なんて、デタラメだ」と叫ぶトランプ氏は心配だ。映画「不都合な真

実」を作り、ノーベル賞を受賞したゴア氏が説得に当たったようだが、原発容認の彼より、新設を許さなかった States (州) の人達の頑張りに期待している。

（児嶋脩記）

発行：麻生区クールアース推進委員会（委員長 吉松富壽子）
 編集担当：岩田輝夫、児嶋脩、松下和夫、林恵美
 問合せ先：麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1
 Tel 044-965-5370 Fax 044-965-5201
 発行日：2016年12月20日

